

第1回松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会 会議録

1 開催日時 令和7年6月30日(月) 午前10時00分から午前12時まで

2 場 所 松本市立博物館 講堂

3 出席委員 会 長 新井 喜代加 氏
副会長 横内 俊哉 氏
委 員 中川 満英 氏
委 員 丸山 剛生 氏
委 員 池田 紫乃 氏
委 員 柄澤 深 氏
委 員 小嶋 和好 氏

(オブザーバー) 荒井 英治郎 松本市教育顧問

4 事務局 曾根原教育長、赤羽次長、山名教育監、甕住民自治局長、小口文化観光部長、遠藤スポーツ部長、二木地域づくりセンター長、清澤文化振興課長、百瀬スポーツ事業推進課長、輪湖スポーツ施設整備課長、小西教育政策課長、内山学校教育課長、廣田生涯学習課長、百瀬文化振興課長補佐、内山スポーツ施設整備課長補佐、降旗教育政策課長補佐、横山学校教育課施設担当課長補佐、幅部活動地域移行総括コーディネーター、有賀学校支援室指導主事、上嶋生涯学習課係長、左治木スポーツ施設整備課主査、篠原学校教育課施設担当主査、中島スポーツ事業推進課主事、篠田学校教育課主事、寺社下生涯学習課主事、長坂文化振興課事務員、竹内教育政策課主査、伊藤教育政策課主任

<会議事項>

令和7年度 地域移行の推進方針について

小西教育政策課長が説明

(委 員) まつチャレの継続見通しに関して、地域に完全移行後、まつチャレという名称は使用しないという予定なのか。

(小西課長) 地域移行後、まつチャレが地域クラブと同じような活動の体制となれば、まつチャレという名称は使用しないという考えです。

(委 員) 保護者、生徒は自分たちで、自己責任で地域クラブを見つけて活動に参加していくことになるのか。

(小西課長) 現在の移行期間においては丁寧な案内が必要であると考えますが、将来的な目標としては、まつチャレ、地域クラブの違いに関わらず、生徒の皆さんが自由に選択して活動に参加されることを想定しています。

- (委員) 移行完了後も5年や10年などある程度の期間、きちんと周知されるまでの期間は、この体制を継続されることを検討されたい。移行完了したので、周知も終了というのは少々乱暴ではないかと考える。
- (小西課長) 貴重なご意見として承り、引き続き検討を進めてまいります。
- (委員) まつチャレについて、学校現場では、先生、保護者、生徒にはどの程度周知されているのか。
- (委員) まつチャレ通信の配信で保護者には情報は伝わっている。生徒に関しては、状況に応じて教員や関係クラブから情報を伝えていく必要があると考えています。
- (委員) 具体的な取組みにスピード感を持って取り組んでもらいたい。今年度から新任の委員には市の推進計画を配布されているか。また、資料には全体方針案とあったが、これは計画に基づいて進める具体的な取組事項という理解でよいか。
- (小西課長) 新任の委員の皆さまには、市の推進計画を配布していませんので、会議終了後直ちに、配布いたします。また、全体方針案は令和7年度における具体的な取組事項ということでご協議をお願いするものです。
- (委員) まつチャレの名称は無くす必要があるのか。
- (小西課長) まつチャレの名称は、国・県のガイドラインを満たす団体に対する、移行期間中の様々な支援の取組みにおける名称として使用しているものですので、移行完了後の取扱いについては慎重に検討してまいります。
- (委員) 生徒の保護者の心配として、子どもは移行後も中体連やコンクール、発表会などに大会に出場できるのかという心配がある。それでも、地域移行の予定を知った上で、今年度の新1年生も多くの部活に入部している。ぜひ、生徒や保護者の心配する気持ちを汲みながら取組みを進めていただきたい。担当者会議等に校長会・中体連関係者が加わり、情報共有の機会が設けられていることはありがたいため、今後も情報共有をしながら進めていただきたい。
- (委員) 生徒たちの、自分たちの日頃の練習成果を示す機会がどうなるかという不安は大きいと思うが、情報の共有や連携を徹底していった方が良いということか。
- (委員) 今後、各地域でクラブチームなどを中心にどれだけ団体が増やせるのが課題になってくると考えます。部活動が無くなることは分かっているが、1年間だけでも部活に参加して活動したいという生徒さんがいて、保護者の方もいろいろな思い、迷いを抱えながら、お子さんと向き合っておられるというのが現状だと考えています。
- (委員) 保護者の皆さんから、不安や期待など、たくさんの意見をいただいている。保護者への情報発信として、PTA連合会の広報誌「絆」において地域移行の取組み状況を伝えたいと考えている。保護者の皆さんから寄せられる不安などに対して回答いただく機会を、今後、取材という形で設けていただければと考えている。

- (委員) 「まつチャレ運営支援マネジメント業務」において、クラブから事務局に寄せられている悩みには、どんなものがあるか。
- (降旗補佐) 競技などの指導はできるが、クラブの運営まではできないと苦慮する声、また、指導者資格を取得して指導するのは難しいという声をいただいています。運営が難しいという方に関しては、運営方法に関する支援策を考えております。また、資格を持たない方に関しては、資格取得補助制度もございますが、指導まではハードルが高いということで、指導ではなく活動の見守り、サポーターとしてご協力いただくことも考えています。
- (委員) 運営支援は重要と考えるが、この資料の取組みで賄えると考えているか。
- (降旗補佐) 指導者でなく、経営者を育てるという点が難しいと考えています。経営のノウハウに関して、スポーツデータバンクと連携しながら、講座などを実施して支援していくことを検討しています。
- (委員) クラブの見守りやサポーターに関して、最近では、企業、特に大手の企業は、地域密着の方向性を打ち出しているため、従業員を多く抱えている企業様へお声がけして、見守りなどの支援に協力していただけるよう取組みを進めてはどうか。

地域移行マネジメント支援の業務報告について スポーツデータバンク(株)長瀬氏が説明

- (委員) 市との連携協定を結んでいる企業に、協力事業者となっただけなのかアプローチしてみてもどうか。

令和7年度 部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題への対応状況 降旗教育政策課長補佐が説明

スポーツ団体の受け皿の整備に向けた令和7年度取組みについて 百瀬スポーツ事業推進課長が説明

- (委員) まつチャレやその他のクラブで、中学生の大会への出場資格のある団体と、そうでない団体の把握はされているか。
- (百瀬課長) 大会によって出場資格が様々であり、十分な確認が行えていません。今後、十分な確認、打合せが必要と考えております。
- (委員) 他地区で、大会に出場するつもりでクラブに参加したが、大会に出場できなかったという事例も聞いている。今後、学校・団体と十分に調整しながら取り組んでいただきたい。

- (委員) やはり、子どもたちは大会に出場したいという気持ちが強いのか。
- (委員) 大会が、活動の目標、活動の成果を示す機会として求められていると考えます。

文化系部活動の地域移行の状況について

清澤文化振興課長が説明

- (委員) 昨年と今年度の入部状況に大きな違いが無いことは、学校外の地域の活動に参加することへのハードルの高さや、学校で活動できる居心地の良さが理由としてあるのではないかと。地域の活動に参加することが難しい、居心地の良い学校で活動をしたいという生徒も多いことを認識していただき、取り組みを進めていただきたいと思います。
- (曾根原教育長) 美術部などに関して、学校を会場とした教員の勤務時間中の活動として、平日の放課後に製作などに取り組むことができる居場所がないか、可能性を検討していきたいと考えています。
- (委員) 公民館では、中学生の活動が地域住民の目に留まるような発表の機会を作っている。それとは別に、家庭の経済格差が生徒の体験の格差につながってしまうことが心配される。移動や参加費への支援が必要であるが、それでも活動に参加することをあきらめてしまう生徒もいるのではないかと考える。
- (委員) 吹奏楽部は、各校の熱心な教員と、サポートする保護者がいて成り立ってきたと考える。教員は異動があるため、保護者会主体で団体が立ち上がった時に、指導者をどうするかという問題が生じると考える。指導者をどうやって確保するのかが決まった上で、保護者会が活動をサポートし、学校と協力しながら進んでいくことができればよいと考えている。

放課後等の子どもたちの居場所づくり調査の進捗状況について

廣田生涯学習課長が説明

- (曾根原教育長) クラブ団体の活動場所について、競技種目や地域によって空白地帯があるため、団体の設立に向けた働きかけを行っていきたくと考えていますが、取り組みを進めるに当たってアイデアやヒントをいただければでしょうか。
- (委員) 前提として、市は各地域に偏りなく活動団体が設立されることが望ましいと考えているという認識でよいのか。
- (曾根原教育長) 現在の部活動と全く同じ形で受け皿を確保することは難しいとしても、中学校や近くで活動に参加できることを目指していきたくと考えています。

(委員) スポーツはスポーツ本部が、文化系は文化観光部が、それぞれ競技団体や協会などと調整しながら進めるということになるのではないかと。今、子どもや保護者の気持ちが揺れ動いていると思うので、市が率先して動いていただく中で、学校や教員も兼職兼業などで協力しようという機運が高まると考える。

(委員) 活動の地域分布の状況が整理されることで、現状、生徒の行き場がないということが認識できる。学校としても、生徒や保護者に受け皿の状況をアナウンスする必要があるため、活動の地域分布の状況は整理していただきたい。空白地帯で拠点校などの取組みを促進することが、空白地帯の解消につながると考える。

(委員) 教育的見地から、参加できる機会を揃える必要があることは理解しているが、経営的見地からは、ニーズのない地域で活動することは難しいと考える。現状の空白地帯には、そもそもニーズが無いということも考えられる。各学校、地域の状況を踏まえつつ、競技団体・協会などと協議を進めていけば良いと考える。

(委員) 保護者は、地域移行するということは分かっているが、移行によって子どもがどうなるのか分からない、どこに問い合わせたらいいのかが分からない。このような協議会で多くの方が加わって検討されているということ、現場、保護者に伝えていく必要があると考える。

(委員) 個人的には、選択肢が多いことが望ましいとは思いますが、少子化もあって今後、クラブが淘汰されていくということも考えられる。働き方改革という地域移行の目的があって、やりたいという気持ちがあっても声を上げられない先生がいるのではないかと。教員や元教員の皆さんの中で、クラブで指導したい、クラブを立ち上げたいという方は、指導してもいい、立ち上げてもいいということ認識してもらったことも必要だと考える。

(閉会)